

食と農村協議会 第一回協議会議事録

参加者:

鳴本浩二、天野正、三宅千代美、妹尾ミチマサ、ムヤ歩、井関竜平、近藤真一郎、山河菊野、細川由子、石田輝宏、三井津好恵、椿貴裕、藤井智晴、近藤民子、山脇節史、守屋基範(16名)

場 所: 笠岡諸島交流センター

開催時間: 14:30~16:15

○議事について

規約の確認

→役員1名副会長1名監事1名

異議なし可決

役員

→会長 鳴本浩二

副会長 天野正

監事 三宅千代美

議事進行を会長へ移行

事業説明へ

「レインボー大作戦」

地元学を活用し資源調査と7島連携

地元と外部の協力で「あるもの探し」とにかく地域資源調査

→コーディネーター: 赤瀬氏、古田氏

LABメンバーも参加

1日目: 飛島、六島、真鍋島 高島(宿泊)

2日目: 高島、白石島、北木島

船をチャーター、大学生5人(エリアイノベーション)、協議会メンバー(有志)、LAB候補生

ビジョン推進LAB

→塾生がチームを組み、島民と協力しながらプラン作成

10月募集開始、定員10人

テーマ「食と農村」

各回、外部講師を迎えてテーマに沿った講演、その後に各島から2人ずつ参加し(協議会がゲストスピーカー)、島の現状をレクチャーする。塾生の他にも一般聴講生も募集し、とにかく興味のある人が気軽に参加できるように心がける。

第1回 ビジョン推進LAB 講師: 三井津好恵氏「直売と福祉」

島のレクチャー 六島: 三宅千代美氏、真鍋島: 近藤真一郎氏

島のために何ができるか考察

協議会からも課題や資源、プランを提案

島ならではのものを可視化する、魅力的な「人」を可視化する

実証実験

→2月に交流センターでマルシェ実施

予算25万円

地域資源調査に関連して「地元学」について資料、ビデオを使って説明。

この事業は、連携の前に、自分たちの住んでいる島には何もないと言わずに、「これがある」「あれがある」と言えるように「身の回りのあるもの探し」で、自分たちで調べて「地域の特徴」としたい。

地域資源調査もビジョン推進 LAB も外からの「よそもの」と共に行動し考えることにより、外部者をこの取り組みにより「笠岡諸島サポーター」として仲間になりたい。

協議会のメンバーを中心に、外部者との意見交換の場を数多く設けるので、ぜひ、積極的に関わっていただき、自分の島の応援団づくりを進めて欲しい。どんどん絡んでほしい。

参加者情報交換

ムヤさんプラン(白石)協力隊

自然農、白石特産の作物の開発

とれた野菜を流通させる→インバウンドを意識し外国人へ食事を提供できる場づくり。

井関さんプラン(六島)協力隊

麦畑の復活、特産品にし、人がつながるツールに

11月4日、5日にオクトーバーフェスト(ビアフェス)

山河菊野さん(飛島)

イル・ドールの取り組み

興譲館飛島スクーリングでの地元住民の関わり方

ぶんずの後継者問題

三宅千代美さん(六島)

島小屋の取り組み

ヨットできた旅行客→自分たちで調理

調理場のみの場所貸しも開始

9月は大学生のゼミにも活用

近藤真一郎さん(真鍋)

給食サービス、ゲストハウスをオープン。11月を目途にカフェも開業予定。

真鍋の良さが抽象的なものが多い、わかりにくい

「猫」目当ての観光客が増加。猫に頼らない観光モデルを作りたい。

天野正さん(白石)

開龍寺までのルートの中に外部の力を借りて常設のアートポイントを整備

綿の体験も高齢化により人が減り、体験も行っているが講師が足りない。趣味でやっている人ばかりなので、受け入れに負担を感じる。秋はトレッキングの案内が目白押し、ガイドも後継者を作りたい